

木村議員

説明資料

新博物館はギャラリー隣接

亀岡市は、文化資料館に代わる新博物館の建設予定地を、ギャラリーかめおか（余部町）に隣接する市有地とする方針を明らかにした。従来は、市上下水道部の旧庁舎（北古世町1丁目）が有力候補だった。文化施設を集約し、一帯を市民が集う「生涯学習の拠点」にする。
（南真臣）

古世町にある文化資料館は築50年超と老朽化し、手狭で収蔵庫不足などの課題を抱える。

建て替えに向けて、2014年度から有識者らによる議論がスタート。23年度に策定した整備基本構想では、市上下水道部の旧庁舎と南隣の春日坂球技場を有力地として挙げた。

市は今年2月、構想をより具体化した整備基本計画の素案を公表。建設地は「ギャラリーかめおかに隣接した場所」と記した。市文化芸術課によると、有識者10人でつくる同計画の検討委員会では「市民が集う場にするには、生涯学習施設であるギャラリー

亀岡市の新博物館建設が予定されるギャラリーかめおか周辺（同市余部町）

亀岡市、一帯を「生涯学習拠点に」

アの近くが効果的」との意見が出た。

ギャラリーは年間を通じて利用があり、新博物館への来場を促す相乗効果も見込めるとして、方針を転換した。

ギャラリー周辺では、音楽演奏や演劇に適した小規模（約200席）と中規模（約500～600席）の文化ホールを造る構想もある。

旧庁舎と同球技場は近くに住宅が建ち、目の前の府道を拡張する計画もある。「建設できる面積が狭い」（同課）のも課題だった。

計画案では、延べ床面積は、文化資料館の約2・9倍となる約4千平方メートル。寄託資料の増加を見越し、収蔵スペースを確保する。委員会で素案に対するパブリックコメントを検討し、24年度中に決定する。

西隣JA京都の敷地取得

駐車場確保にめど

インサイド

亀岡市が、新博物館の建設地とする方針を示したギャラリーかめおか（余部町）周辺は、整備基本構想の検討前から推す声はあったが、駐車場不足が壁となっていた。市が、西隣にある京都農業協同組合（JA京都）の敷地取得を決め、駐車場の用地確保にめどが付いたことで、方針変更に影響を与えた。

文化資料館（古世町）の建て替えを表明した2023年以降、JR亀岡駅から徒歩10分程度と利便性が高い上下水道部の旧庁舎に建設候補地を絞った。旧丹波亀山城下町にあり、周遊観光を促す効果も期待した。

構想をより具体化する中で、駐車場の必要台数の確保が難しいことが判明。大型バスが進入できない現在の課題を、引き継ぐ恐れがあった。

が重なる駐車場が満車になる事態が度々発生。新博物館を造れば、混雑に拍車をかける懸念があった。

昨冬、JA京都本店と亀岡中央支店の敷地（約1万4900平方メートル）の取得方針を市が示し、風向きが変わった。

今年1月の整備基本計画の検討委員会で、有識者10人が建設場所を議論。ギャラリーは国道9号や372号、京都縦貫自動車道の亀岡インターにも近い。駐車場確保の見通しが立ち、「市民の主な移動手段は自家用車。アクセス面で利点がある」（市文化芸術課）との考えでまとまった。

ギャラリーから亀岡駅までは約1・6キロ。路線バスはあるが、篠町や大井町など人口密集地から公共交通でのアクセスが不便との不満は根強い。車での移動が難しい高齢者らの足をどうするのかが、今後の課題の一つになりそうだ。

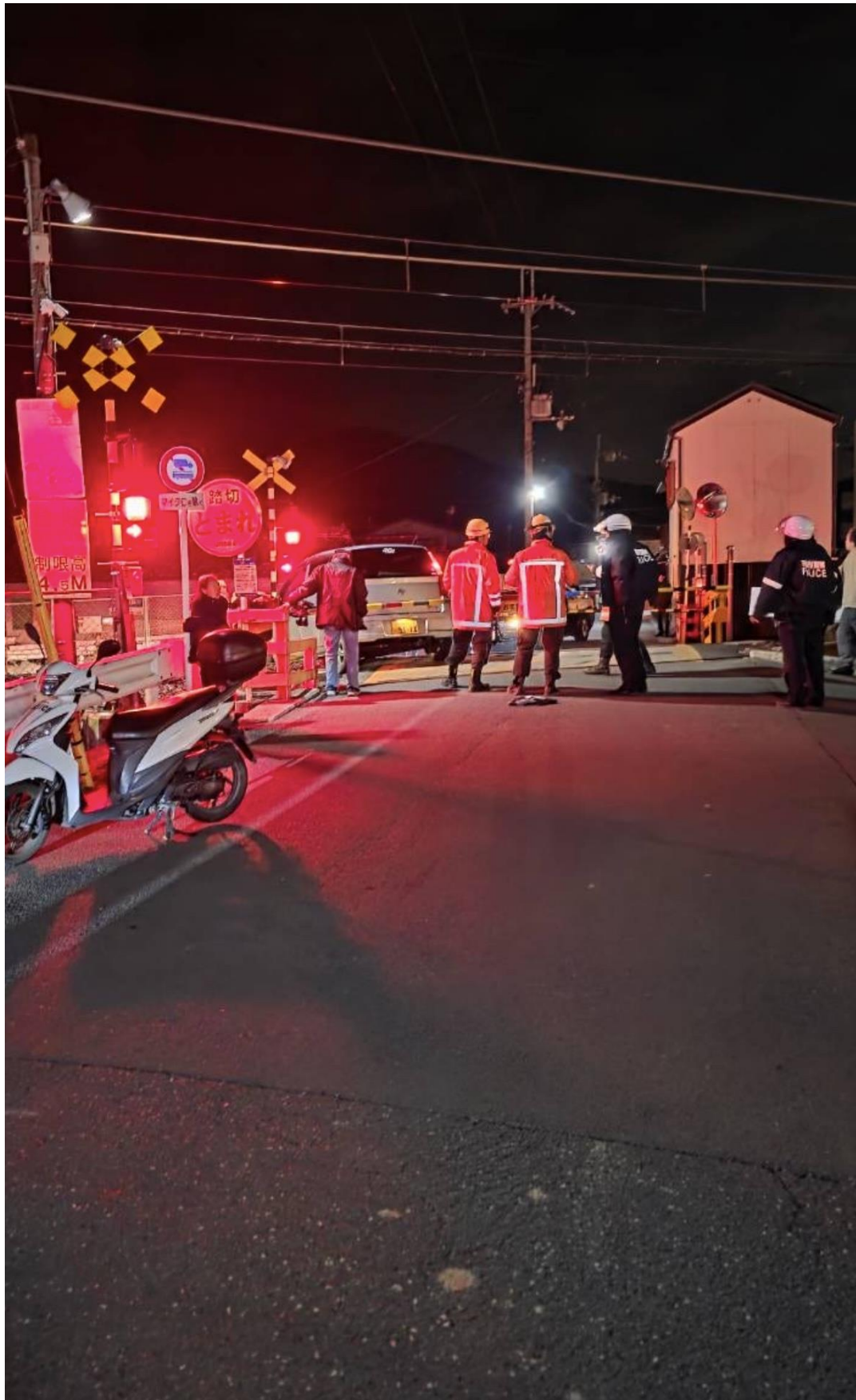


桂川西工区 雨水排水路





田中踏切





脱輪現場



並河駅方向



亀岡駅方向

